

1 1) 現地普及活動事例の紹介

(1) ばれいしょ「スノーマーチ」の食卓までの道程 ～低温貯蔵で美味しく変化～

オホーツク総合振興局 網走農業改良普及センター

1. はじめに

訓子府町では、平成 19 年にばれいしょの最重要害虫であるジャガイモシストセンチュウが発見された。また、「男爵薯」の主産地であるが、そうか病の発生拡大が問題となっており、安定生産の妨げとなっていた。

そこで、訓子府町の生産者は、北見農業試験場で育成され、両病害虫に抵抗性がある品種「スノーマーチ」に着目した。「スノーマーチ」は病害虫に強く、収量も高いことから安定生産に適した品種である。しかし、収穫直後の食味が青果用としては劣り、いもの芽も早く出やすい(早期萌芽)ため栽培しても販路確保は難しく、普及が進まない状況にあった。

このため、普及センターでは生産者、農協、北見農業試験場と連携し、「スノーマーチ」の食味向上による販路確保、および販路拡大を見据えた安定出荷体系の確立を目指し取り組んだ。

2. 活動の経過

(1) 低温貯蔵で美味しい「スノーマーチ」に変化

「スノーマーチ」は、収穫直後の食味が劣ることが最大の課題であった。そこで、食味(甘さ)を引き出すため一定期間低温貯蔵を試みたところ、甘みが強く、極めて良食味の「スノーマーチ」に変わった。これをきっかけに、「低温・熟成」をキーワードとした販売展開を進めた。

次に、貯蔵条件の違いによる糖含量(甘さ)の変化を調査したところ、貯蔵温度が低いほど早期に増加するが、常温貯蔵でも外気温の低下に伴い増加した(図1)。この結果から、安定した食味を引き出すための出荷体系を考案した。

(2) 早期萌芽は完熟いも栽培で防ぐ

「スノーマーチ」は、品種特性として早く萌芽しやすい。また、ほ場によって出荷後、極めて早く萌芽した事例があり、販路拡大を進める上で萌芽対策も必要になった。そこで、出荷後の早期萌芽条件を栽培管理・貯蔵管理の両面から調査した

ところ、茎葉処理時期が早い未熟いもほど萌芽が早まることを特定した(図2)。特に、低温で貯蔵する場合、未熟いもでは極めて早い時期に萌芽が認められ、「スノーマーチ」では完熟いも栽培が求められることが示された。このため、早期萌芽を防ぐ栽培・貯蔵方法を設定し、完熟いも栽培の普及を進めた(表1)。

3. 活動の成果

(1) 食味向上で販路確保

低温貯蔵により食味が向上したことで、市場評価と知名度が高まり、販路が確保された。また、貯蔵条件の違いによる糖含量の推移から出荷時期別の貯蔵方法を整備した。これにより、消費者に好まれる「スノーマーチ」の安定出荷が可能となった。

現在、JAきたみらいでは低温貯蔵後の出荷を進めており、出荷時期は「スノーマーチ」にちなみ、雪が降る期間としている。

(2) 完熟いも栽培が定着

調査結果に基づき、未熟いも栽培は早期萌芽を招くことを生産者に示した。その結果、茎葉枯凋後の茎葉処理率が高まるなど、低温貯蔵に耐える完熟いも栽培の普及が進んだ(図3)。

(3) 訓子府町から他地域への広がり

「スノーマーチ」は年々栽培面積が拡大し、現在は近隣市町を含めた広域で取り組まれている(図4)。販売面では、北見市内のほとんどの量販店で扱われるほか、道外まで販路が広がっている。また、スノーマーチフェスタ(北見市内の消費者を対象)で行ったアンケート調査では、89%が「スノーマーチを買いたい」と回答している。

4. 今後の展開

栽培面積の増加に伴い、規格外品の活用が課題となる。このため、「スノーマーチ」を使った商品開発(1次加工品含む)を関係機関と連携しながら進める。また、農協女性部等と連携し、消費拡大に向けた料理レシピの作成を進めていく。

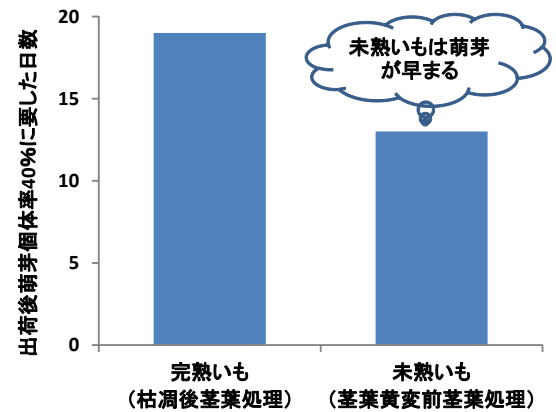
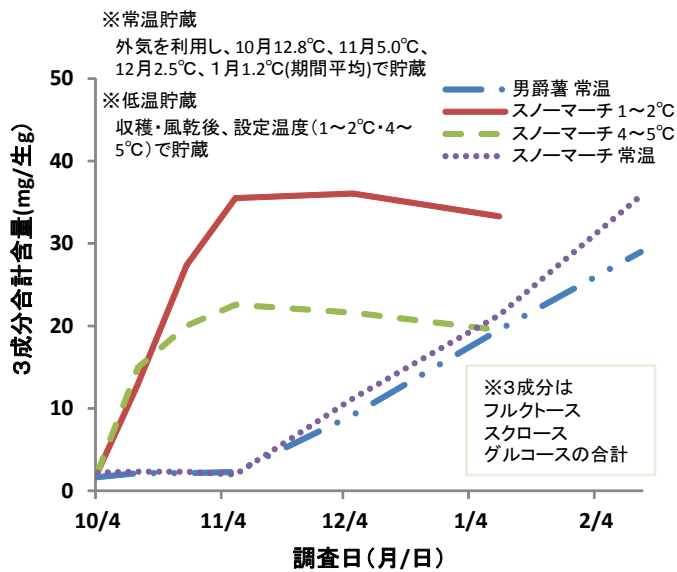


図2 いもの熟度による萌芽の早晩

図1 貯蔵温度の違いによる糖含量の増加

表1 早期萌芽を防ぐ栽培・貯蔵方法

■栽培管理(生産者)

- ・茎葉処理は極力遅くし、「完熟いも」生産に努める。
- ・収穫後のキュアリング(風乾)を十分に行った後に貯蔵する。
- ・生育環境(ほ場条件、十分な培土など)や収穫条件を含め、いもにストレスを与えない。

■貯蔵管理(農協)

- ・入庫~11月中旬……4~5℃が下限温度の目安。
- ・11月下旬以降……1~2℃で貯蔵する。

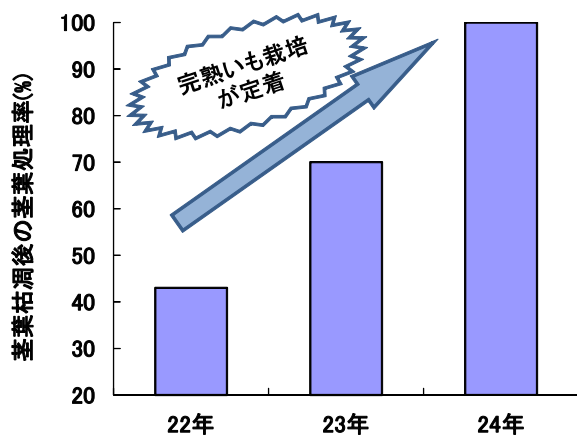


図3 茎葉枯凋後の茎葉処理率

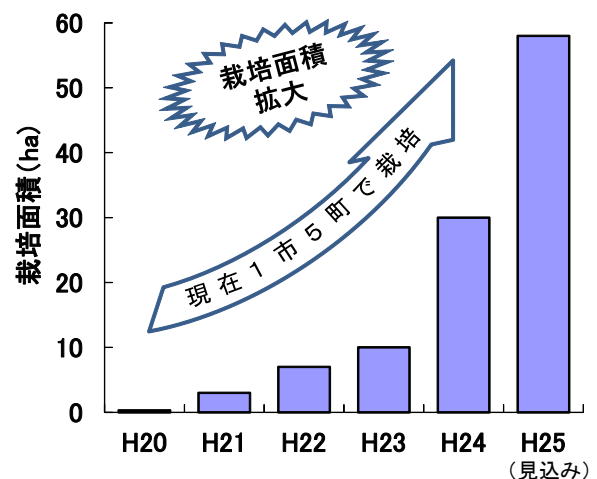


図4 栽培面積の広がり